

美しい心の服

くすだがかべをけつていろ 小さなくもだ

かべをけつていろ かくあきらめりもりだ

床をけつていろ 時をみろ おどろくと

ひよんをとぶ とぶと言つてまほんの教せん

千ぐらいいだ

去年も川さいくもをまかく見た

夏が来たのだ

今朝は雨かふつていい

つねのゆほみちをりか ぶしあつていい

去年もこんな存在むしあつたのなまく

おぼえつていいあいかやけりエアコとのせやに

なる そのエアコとの存在が下だ 洋服が牛

かまふ 蚊の腹をどかかすをり

白いほこりやけをつてきたと並んでいぬ

真白いほこりやけは 私をよろこばせて

くねる ついさきまがはがレヒをりた

古いほこりやけが二枚あは服そのものが

ほこりはいいやだと下かつていい

見るからに古い服がつかれて下つていたが

白い力だゝさか午ると申す服もとすも

素敵にももえる

今日付はこれに着ようかあると 可どまことも

去来そうに

和の心付いたも 不だん着に

心も此子に付 ふう行きたに取うあらと

自分自身もあきてしあう

これから先廻り何も去来争かつたハルビに

受つて責証者公衆の予定に

さつと気がしつりゝと思ふ

ふだん着もしいけれど 美しい服の心で

むかえつかわよう

2020
7/2